

平成23年度グループ対抗

里山デジカメラ選手権 入選作品集

身近な
森林の
再発見!!



最優秀賞（林野庁長官賞）作品



水都おおさか森林の市
実行委員長賞



主催 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

共催 里地ネットワーク、水都おおさか森林の市実行委員会

協賛 (株)ニコン

後援 朝日新聞大阪本社／(NHK) 大阪放送局／(公財)森林文化協会／毎日新聞大阪本社／産経新聞大阪本社

局 長 挨拶

近畿中国森林管理局長
本 村 裕 三



本日は、「グループ対抗里山デジカメ選手権」の最終審査会を、ここ「水都おおさか森林の市」の会場において開催いたしましたところ、大勢の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この後、最終審査に残られましたグループの方々には発表いただきますが、どうかよろしくお願いいたします。

また、大変お忙しい中、審査員をお引き受けいただきました3名の先生の方にも、改めてお礼申し上げます。

皆様ご案内のとおり、里山はかつて地域住民の方の日常生活の中で継続的に利用することで維持管理されてきました。しかしながら、薪や肥料や炭の利用が減少し、里山の多くが放置されるようになりました。

一方では、最近の地球環境の保全や生物多様性の保全の観点から、里山が見直され、里山についての関心が高まってきているという状況があります。

また、今年2011年は国連が定めた「国際森林年」ということで、全国各地で様々な取組が行われております。国際森林年は、世界中の森林を持続的に経営していく、また、保全していくということの重要性を、みんなで再確認しようという目的の下に行われており、私どももこの一年しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

特に、里山については、私どもの組織である「箕面森林環境保全ふれあいセンター」を中心に、地元住民の方、森林ボランティアの方、関係の行政機関、有識者の方などいろんな方にご参加いただいて、里山の再生や利用や整備の取組を進めてきております。

今年の里山デジカメ選手権のテーマは「身近な森林の再発見!!」です。長年にわたって荒廃してきた里山は簡単に回復できませんが、まずはこのような取組を通じて、里山について多くの方に関心を持っていただくことが重要ではないかと思います。

先日、今森先生を中心に一次審査を行い、30グループを選びました。これから30グループの代表の皆様方に、作品の説明や背景、熱い思いを発表していただきますが、会場の皆様といっしょにその思いを分かち合うことができれば大変うれしく思います。この里山デジカメ選手権がきっかけとなって里山について、さらに関心が高まることを期待して、私の挨拶といたします。

(※平成23年10月8日開催の最終審査会会場にて挨拶)

審査員総評

◎ 青山 佳世 氏（フリーアナウンサー）



入賞された皆さんおめでとうございます。それ以外の皆さんは残念でした・・・というほど今回は簡単ではなかったです。皆さんたちも、一生懸命写真を撮ってくださり、メッセージを考えていただいたわけですので、私たちも本当に悩み抜き、議論し抜いた結果だと思ってください。

例年参加されている常連さんはよくお分かりですが、新しく参加をしてくださった方もいらっしゃるのので改めて言いますが、里山デジカメ選手権というのは、写真もちょうど撮らねばならないし、しかも3枚組にして、中身も必要だし、プレゼンテーションも要求されるという大変高度な選手権なのです。

その中で、最終審査に残られたというのは大変なことですし、ましてや入賞されるというのは大変なことだと思います。

また審査員も今森先生は写真家ですから、どんなに思いがあっても、どんなにプレゼンテーションがよくても、写真として立派でないと評価しないですし、森林管理局長はどちらかというとみんなの調整役なのですが、只木先生は森林のご専門ですから、どんなに写真がよくても、プレゼンテーションがよくても森に関する考え方が違うと評価しないし、私はフリーアナウンサーですから、どんなに写真が素晴らしくても、3枚のストーリーや、プレゼンテーションができていないと評価しないとそれぞれ譲らないので、まとまらない。そんな中で作品の評価が上がったり下がったりして、このような結果になったと思ってください。

今後参加される時に参考にしていただきたいのですが、皆さんたちが選ばれた結果は冊子になります。私たちは、皆さんたちの写真とお顔と思いとプレゼンテーションを聞きながら総合的に判断しますけれど、最終的には、印刷されて目で見える媒体としてまとまることを想定して判断すると、この作品ではインパクトが足りないとか、皆さんの思いがこんなにあるのに写真からは伝わってこないなあということで、決定するということです。私としては今回の入賞作品以外にも残念な作品がいくつかありましたが、目を見た時に皆さんたちの思いや、メッセージがきちっと伝わるような最終的な作品になっていないといけないということです。

そんなことを来年も参考にしていただきながら、是非来年も参加してくださるよう心から期待をして、お祝いの言葉とさせていただきます。皆さんおめでとうございます。



審査の様子

◎ 只木 良也 氏（農学博士）



私は森林のことばかりをやってこの歳になりますが、森林の写真を撮りだしてから60年は越えていると思うのです。したがって、こだわりがありまして、今回の入賞作品選定にも、私かなり注文をつけまして、不承不承その辺でよかろうと妥協したのがあります。それはどういうことかを申し上げておきます。来年のこともありますから。

このイベントのタイトルは里山デジカメ選手権でございます。では里山とは何だというと、千差万別ご意見が違うのです。その辺の理解が私とぴったりに合わない人がたくさんおいでになる。私は里山という言葉にこだわります。里山というのはあくまで森林であります。昔の原生林を潰して人間がつくり直してきたとか、いろいろ言われますが、あくまでも森林であります。田んぼや畑とは違うのです。その田んぼや畑を養ってきたのが、里山なのですね。これが正しい定義なのですが、社会一般の理解はあいまいになりまして、農地も里山というような人がおいでになります。メダカの泳いでいる小川も里山だとおっしゃる。私はその辺にこだわって「正しい里山」を主張しましたが、大勢的には妥協いたしました。不承不承と申し上げておきます。

確かに、去年の10月に名古屋でCOP10（コップテン）生物多様性条約の世界会議がありまして、日本は里山をローマ字にして「SATOYAMA」と世界にアピールしました。すると、類似のものが世界のあちこちにありますよというので、10種類くらい出てきたのですね。そんな中でローマ字で書いたSATOYAMAというのは、私がいう里山ではなくて、これは里に近いところの森林であり、農地であり、人間の生活であり、そんなものをひっくるめたものを言っているのですね。そこを皆さん考えてほしいのです。この里山デジカメ選手権をやっている主催者はどこか。森林管理局なのですね。やはり森林というものを中心にもの考えてほしいなあと、私の一つの願いでございます。

写真の美しいこと、珍しいものが写っていることも重要なアピール点だと思っておりますが、私はそれだけでは応募条件3点セットの意味がないと思っております。これはその3点で起承転結、ストーリー性があるって、こういう物語をその3点の写真で物語るのだという説得力がほしいと思います。きれいな写真が3枚あるというだけでは主旨が違ふと思いますので、注文をつけておきます。そのストーリー性もテーマが里山ですから、自然界のこと、人間の生活を支えてきた森林のこと、人と自然(森林)との交わりの結果がそこに物語られていることを希望したいと思います。

本日受賞の方々、おめでとうございます。

私の長年の経験から、森林など自然の写真を撮る時のポイントの一つを申し上げたいと思います。これが今回のデジカメ選手権にぴったりかどうか分かりませんが、定点観測を心掛けてほしいなあとと思います。定点観測というのは、同じ場所を同じアングルで、来年も再来年もその次の年も撮り続けるということです。それを並べてみますと、その自然の動きがよみがえって出てきます。それを10年20年続けて自然界というのが分かってくるという、そんなところまでいけるようなデジカメ選手権であってほしいと思っております。

◎ 今森 光彦 氏（写真家）



本日受賞された方、おめでとうございます。

私は写真家の立場で審査させていただいたのですが、去年に引けをとらない力作がたくさん集まりまして大変喜んでます。

だいたい組写真のコンテストは難しいです。3枚で起承転結はプロの技です。私たちでも3枚で表現しろと言われても、たぶんできないんじゃないかと。まだ1枚の写真のほうがいいです、比較的楽かもしれない。次に楽なのは10枚くらいですね。8枚とか9枚とか12枚とか、意外に表現しやすいです。3枚は非常に難しいです。そういう問題があるかなあと。よほど自分がやっていることを把握してテーマを絞ってみせない、なかなか審査している私たちに伝わらないというのがありますね。

それから、文章を発表していただきますので、内容を伴っていないといけない。撮影した方々が何を思っているかを発表する場がありますので、これも難しくさせてるのかなと。それも評価に値してますよね。結構このコンテストは難しいだろうなあと感じますね。おまけに、それぞれにこだわりのある人たちと審査していますので、意見が分かれるのですね。受賞された方は接戦ではありますけれども、おおむね皆さんの評価を得て残ったと考えていいかなあと感じます。

一つだけ写真家の立場から言わせていただくと、里山なので、自然だけでなく人が入ってきてますよね、その時に後ろ姿が多すぎます。花でも向こう向いている花は撮らないですよね、花をきれいに撮ろうとしたら、こっち側を向いてる花を撮るでしょう。カエルも後ろ姿を撮りませんよね、人間も表情が大事なのです。棒立ちをしていて後ろから撮ってる写真は見たくないというか、安易に撮れてしまう、誰でも撮れてしまうだろうと、これは撮影者の意欲ですよ。これは特に活動部門に多いのです。活動されているところを撮られますよね、山があって道があって、人が列をなして歩いている、それをみんな後ろ姿だったりするのです。それをもっと変化をつけさせようとする、人間の表情以上に変化があるものはないですから、前に回って撮るとするか、それだけで変わってくるのですね。

やっぱりテーマを絞って、自分が何を撮りたいかが分かって、欲張りにならないことですね。意外にいいのが、学生部門の方々の発表が意外にいいのです。一般部門の方よりもテーマが絞れているのです、不思議ですね。写真は写真で独立して、話してることも話している。本来自分の説明、表現したい言葉の内容と写真の表現はあまりいっしょでなくていいのです、別の表現と考えていいです。写真は写真で独立した表現だと分かる、文章は文章で表現する、そういうふうに分けていただいてもいいのかなあと感じます。

回を重ねて参りまして、レベルは高い低いとかではなく、参加していただいている方々にこちら側の主旨がだんだん伝わってきている感じがしますね。森は森としてある中で人との関わりがあるということ、人に開かれた森であること、森だけが森であつても仕方がないのですね。人を含めた命のためにやるという主旨なわけですから、そういうことが伝わってきた写真コンテストなのじゃないかなあと感じます。

また来年を期待しています。おめでとうございます。

最終審査会及び表彰式

- 開催日：平成23年10月8日（土）
- 最終審査会会場：近畿中国森林管理局 1F「こもれび」
- 表彰式会場：水都おおさか森林の市特設ステージ



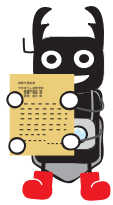
最終審査会会場入口にて一次審査通過 30 作品を展示



一次審査通過者によるスピーチ



表彰式



平成 23 年度 「グループ対抗 里山デジカメ選手権」入選作品一覧表

賞	タイトル名	グループ名	部門	メンバー氏名	所在地
最優秀賞 (林野庁長官賞)	さとやまの雨	広島県立 庄原格致高等学校 写真部B	学校	倉谷 朱梨 三嶋 勇吾 藤原 優生	広島県 庄原市
水都おおさか 森林の市 実行委員長賞	自然がくれた笑顔	デジカメ姉妹	一般	内藺 美子 瀧口 久美子	兵庫県 西宮市
国際森林年 特別賞	森を歩く	滋賀森林 インストラクター会	森林・ 林業 活動	浅香 剛 田中 孝雄 高橋 優	滋賀県 草津市
優秀賞 (近畿中国 森林管理局長賞)	春を呼ぶ炎	友人同志	一般	沼田 多作 谷岡 隆志 松岡 守	岡山県 真庭市
	森林の美	江頭家族Ⅱ	一般	江頭 博幸 江頭 茉莉	大阪府 堺市
	育む・遊ぶ・学ぶ	特定非営利活動法人 木曾川・水の始発駅	森林・ 林業 活動	湯川 喜義 岩原 大輔	長野県 木曾郡 木祖村
	素敵な出会いを 育む森	トヨタの森	森林・ 林業 活動	大原 満枝 杉山 時雄	愛知県 豊田市
	台場クヌギ林の 再生から里山文化を 楽しむ！	ひとくらクラブ	森林・ 林業 活動	和田 勲 檜原 朋子 和田 久美	兵庫県 川西市
	涼しい里山	岡山県立 高梁城南高等学校 写真部A	学校	柴田 彩名 佐藤 萌々子 藤澤 遥	岡山県 高梁市
	大原の大切な自然	京都大原学院 自然守り隊っ！	学校	中林 香穂 安井 有希 山本 莉帆	京都府 京都市

◎最優秀賞（林野庁長官賞）【学校部門】

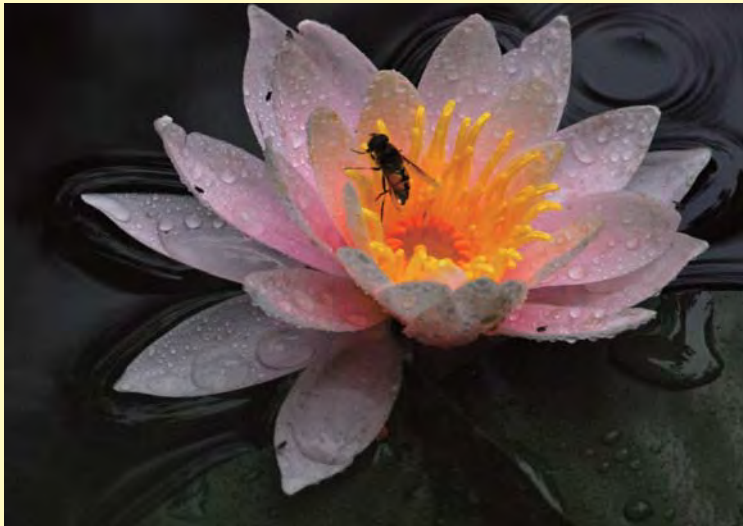
①



②



③



「さとやまの雨」

広島県立庄原格致高等学校 写真部 B

(広島県庄原市)

倉谷 朱梨

三嶋 勇吾

藤原 優生

〔メッセージ〕

この写真は、私たちの住んでいる町の吾妻山というところで撮影しました。雨が降る中での撮影で、とても大変な状況でしたが、それでは雨に濡れている自然を撮ろうということになりました。昆虫や植物が雨に濡れて水滴がついている姿は、どこか神秘的で里山の森の生命力が伝わってくる気がしました。

トンボを撮影するときは、スローシャッターなのに動くので、どうしてもぶれてしまい大変でしたが、粘って何度も何度もシャッターを切りました。

大木にコケがつき、その上に生えている小さな植物がありました。とても小さいのでマクロレンズを使って、水滴が落ちる瞬間に狙いを定めて何度もシャッターを押しました。また、この山の中腹には池があります。雨に打たれながらも懸命に咲く蓮がありました。ハチがちょうど飛んで来た瞬間を逃さず撮りました。

レンズに雨がついて濡れないように部員たちで協力して、傘を持つ人や泥の上に荷物は置けないのでそれを持つ人など、チームプレイで協力して「さとやまの雨」という作品ができました。雨の中の撮影は大変でしたが、雨を生かしての写真撮るのは初めての体験でした。雨にぬれた動植物・風景に新しい発見がありました。それをこれからの撮影に生かしていきたいと思います。

撮影場所：広島県庄原市

〔講評〕

雨というのは、普通は写真が撮れるのかなあと思ったり、撮るのが億劫になるものですが、そんな雨の日を選んで撮っているのがすごく湿った感じ、みずみずしい感じがうまく表現されています。

1枚目のトンボの写真は雨というのはシャッタースピードをうまく調整しないと写らないものですが、クローズアップでなおかつ雨が写り込んでいるのがすごいです。2枚目の写真はまさに雫が落ちる一瞬をとらえています。3枚目は水蓮に虫が雨宿りしているのでしょうか、ちょうど花心のところにとまっているいい瞬間をとらえましたね。またバックを暗くして浮き上がるように撮影しており、3枚とも写真として見応えのある作品です。

〈今森 光彦氏〉

◎水都おおさか森林の市実行委員会賞【一般部門】

①



②



③



「自然がくれた笑顔」

デジカメ姉妹

(兵庫県西宮市)

内蘭 美子

瀧口 久美子

〔メッセージ〕

普段の生活ではなかなか山や自然を身近に感じる事はないのですが、山の中にある父母のお墓参りや、寺院を訪ねることで、日頃気づかないようなちょっとした事に癒されたり、笑顔になったりします。その瞬間をカメラにおさめました。

写真①お盆前に父母のお墓参りに行った時の写真です。なかなかお墓参りに行けずにいて気になっていました。案の定お墓まわりは草が生い茂って、私たちは暑い暑いと言いながら掃除をしていました。すると一匹大きな「バッタ」が現れました。こちらを見ているかのようにさわっても逃げもしないので、私の子ども達は「おじいちゃんや!」と言いました。「そうやね一早く掃除しに来てや〜って待ってたんやで〜」と言ってるかもよ。まさに、そんなふうに見えました。そのうち、どこからか、小さいバッタもあらわれました!!「おばあちゃんや!」二匹そろってじっとしています。子ども達も嬉しくなつてのぞき込んでいるところを撮った写真です。

写真②普段はゲームや野球に夢中の子供達を連れて、夏休み京都に行きました。はじめは、退屈だの、疲れただの文句を言っていましたが、お寺の中庭にある縁側でしばらくいると、まるで田舎の庭でくつろいでいるかのように、楽しそうにしています。緑や自然の中にと、こうも癒された良い笑顔をするのかと写真を撮りました。

写真③梅雨の合間の晴れた日に、宇治の三室戸寺にあじさいを見に行きました。山の中に1万株のあじさい園があり、見頃でした。たくさんの人達もあじさいをカメラにおさめていました。私も笑顔になってわくわくしながらシャッターを押していました。

撮影場所:①神戸市東灘区 ②京都市東山区 ③京都府宇治市

〔講評〕

明るい杉林の中に紫陽花が咲いている綺麗な環境の写真と、お寺で子どもたちがたたずんでいる写真から、里山ののんびりとした風景が感じられます。

特に1枚目の写真はちょっとピンボケが惜しいのですが、デジタルならではの絶妙なシーンです。バッタを手前に置いて、向こうから覗き込む子どもの表情がすごくいいですね。この表情が良かったので、この作品は点数が高かったと思います。

〈今森 光彦氏〉

カメラ: Canon PowerShot

①



②



③



「森を歩く」
滋賀森林インストラクター会
(滋賀県草津市)
浅香 剛
田中 孝雄
高橋 優

〔メッセージ〕

薪や炭の生活で育った大人達が身近な森を歩きます。先人達の森づくりと、水源をはじめ多くの森林の恵みを再確認します。森のしくみや役割を、森や木と人との歴史、日本の森林文化も学びます。そんな森林カルチャー講座に、「子供時代の森や里山の思い出話」を持ち寄った大人達が集まります。心地よい森歩きに笑顔の会話が広がります。「森は気持ちよいし、ありがたいなあ〜」と感謝の言葉も出てきます。そして「森で感じたことや知ったことを子供や孫達にも伝えたい」とシニアならではの役割もチョッピリ自覚して…。かけがえのない大切な日本の森を楽しく歩きます。写真は、琵琶湖を取り囲む水源の森、菅山寺と比叡山での現地講座の一コマです。

写真①琵琶湖北端、余呉・菅山寺の森を、多雪地帯の雪解け水が琵琶湖に注ぐ水源涵養の大きな機能を想いながら、ブナ林などの森林植生を観察し、仲良く一列に「森を歩く」皆さんです。

写真②ここ菅山寺は菅原道真公ゆかりの寺です。多くの種類の巨木に圧倒されますが、この巨木のケヤキは樹齢1000年を越え、道真公お手植えと伝わります。その生命力に触れた感動は、まさに「森歩き」のご褒美です。今も何かを発信し続けているその巨体像が皆さんの森歩きについて来ます。

写真③「水源の森100選」に選定され、1200年の人と森との歴史が刻まれた日本を代表する「比叡山の森」です。あの千日回峰行の大阿闍梨さんが回峰される行者道です。営々と大切に管理されているヒノキ林施業の姿を「水源の森100選」とともに学んでいます。

撮影場所：①②滋賀県長浜市余呉町 ③大津市比叡山

〔講評〕

活動の写真を伝えるのはマンネリ化して面白くないものが多いのですが、これは活動している周りの環境をうまく取り込んで1枚1枚説得力があります。

2枚目の集合写真は大きな巨木を置いて、奥にお寺が見えていてスケール感のある写真になっています。散策されている写真も構図をうまく作っています。全体的に安定感のある写真に仕上がっていて、活動されている様子が伝わってくる作品です。

〈今森 光彦氏〉

カメラ：Nikon COOLPIX P7000

◎優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【一般部門】

①



②



③



「春を呼ぶ炎」
友人同志
(岡山県真庭市)
沼田 多作
谷岡 隆志
松岡 守

〔メッセージ〕

中国地方岡山県の里山を代表する蒜山三座の山裾。ジャージー種乳牛で有名な放牧地を維持・管理していくのに重要な作業の一つで毎年、繰り上げられる里山の春を迎える野焼きは、枯れ草の中で越冬する害虫駆除と雑草木の刈り払いに代わる農作業の一だ行事であります。

この野焼き作業も近年は労働力の不足で、取りやめを考えられていることも一部耳に入る世相ですが、昔から続けられてきた里山の営みを絶やさないでほしいと、私たちカメラ愛好者からも願いを込めて、里山の風物詩をアピールします。

写真①竹竿の先に油を浸み込ませた布や松明（たいまつ）で、合図とともに一斉に枯れ草に点火される。

写真②点火と同時に枯れ草に燃え移り、放牧地は炎の海に変わっていく。

写真③雪の大山（鳥取県）を遠望する放牧地は、瞬く間に黒に変色し、やがて新緑の春を迎えるであろう里山の情景です。

撮影場所：岡山県真庭市蒜山

〔講評〕

普段から風景などを撮っておられる方だと思うので、まとめ方がうまいです。大山での野焼きの写真ですが、こういうのは年に1回くらいしかないので、そこをうまくとらえています。雄大な背景をバックにしながら、炎が燃え上がっているシーンがいいですね。

特に1枚目は人がうまく配置されていて、人と自然との繋がりが表現されていていいなあと思いました。

〈今森 光彦氏〉

カメラ：①③Nikon 40x ②Nikon D5000

◎優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【一般部門】

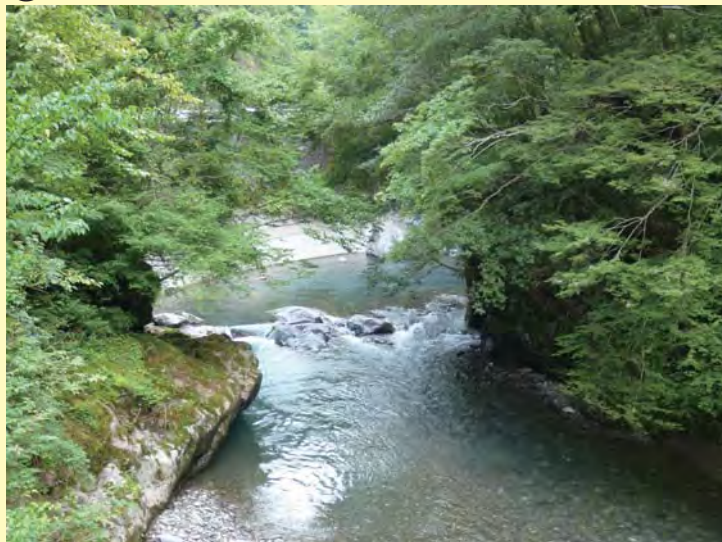
①



②



③



「森林の美」
江頭家族Ⅱ
(大阪府堺市)
江頭 博幸
江頭 茉莉

〔メッセージ〕

今回は、森林と自然の美しさを求めて、川上村と天川村方面へ撮影に出かけました。森林とはこうあるべき姿ではと思いその美しさに見せつけられシャッターを切りました。

写真1は木のかたまりが木の形になり森林をあらわしており、これぞ森林の最高の美しさではないかと思っています。

写真2は森林と川の流れの景色がうまく調和していたので撮影しました。

写真3は森林の中へ入り込み写真2と同じく森と川の流れがうまく調和していたので撮影しました。すばらしい景色とたいへん涼しく都会の暑さを忘れさせてくれる撮影の旅でした。ぜひ又別の場所に行ってすばらしい景色にめぐり合いたいものです。

撮影場所：奈良県川上村と天川村方面

〔講評〕

山間の溪流の風景を撮った作品ですが、1枚目の写真には渓谷は写っていないのですが、山の面を撮ったもので、落葉広葉樹林の中にある針葉樹の緑の対比、木の対比が非常に浮き上がって見えて面白いです。

日本の山の典型を見ているようです。緑の発色がとても綺麗で、全体のトーンとして美しい作品になっています。

〈今森 光彦氏〉

カメラ：Panasonic LUMIX

①



②



③



カメラ：①②Nikon D70 ③Nikon D700

「育む・遊ぶ・学ぶ」

特定非営利活動法人 木曽川・水の始発駅
(長野県木曽郡木祖村)

湯川 喜義
岩原 大輔

〔メッセージ〕

今年は“国際森林年”。木曽川源流の里「木祖村」は、面積の約90%を森林が占めている緑豊かな山村です。この山をフィールドとして、未知なる世界に興味津々子ども達にとって、さまざまな体験活動が行われています。

植林は、自分の未来を展望し託す良い体験です。健全な良い森は、手入れをすることによって保たれています。また、地球温暖化防止にとってはCO2を吸収してO2を供給してくれたり、心を癒してくれるセラピー効果があったりなど、森林の効果が今程期待されている時はありません。森を育む第一歩として、自分の成長と共に育っていく木があることは、これからの生活での心の糧になるものと思います。

“水木沢天然林”には、戦後の復興期に伐採された木の切り株が、今も朽ちつつも残っています。天然林の特徴の一つである「根上がり」は、子ども達にとっては、大きな不思議であり、この「根上がり」をくぐって、パワーをもらった子ども達は、大きな希望がかなうよう、大きな声で天へ向かって叫んでいます。明るい未来が開けることを祈らずにはいられません。

山の中には色々な形や色や匂いの物が満ち溢れています。今回は、これらを材料にした“学び”です。「穴のあいた硬いもの」、「花が咲いているもの」、「木の实」などなど、自分の目で見たり、触ったり、匂いを嗅いだりして、自然や生物の多様性を実感することができます。これらの経験を通して、「個人の尊重」や「生きる力」を体得してほしいものです。

森の中では、生命(いのち)の育みが実感でき、また、不思議がいっぱいあって、普段触れることができない体験もすることができます。森林環境教育や情操教育の場として活用していただきたく思います。

撮影場所：長野県木祖村①こだまの森付近 ②③水木沢天然林

〔講評〕

活動している楽しさが伝わってくる写真ですね。それをうまく3枚の組写真にまとめていただいています。

3枚目には子どもたちが集めたのであろう自然の物が写っていますし、2枚目の子どもの表情がなかなかいいですね。山で遊ぶ楽しさが伝わってきます。1枚目の子どもの表情もいいですし、3枚とも活動の楽しさが伝わってくるいい作品だと思います。

〈今森 光彦氏〉

①



②



③



「素敵な出会いを育む森」

トヨタの森

(愛知県豊田市)

大原 満枝

杉山 時雄

〔メッセージ〕

春のある日、ムササビが樹洞から顔を出していました。まぶしいほど美しい若葉の色やそよ風の心地よさに誘われたのかもしれません。この洞は、アオゲラという緑色のキツツキが子育てをするために掘った穴ですが、今ではムササビが住人です。ムササビは日が落ちる頃に巣穴から出て、木から木へ滑空して若葉や花や木の実を食べて暮らしています。夜行性なのでこんなかわいい姿に出会えた日はとても幸せな気分になります。

木に架けた三角屋根の家からフクロウの子どもが出てきました。お母さんフクロウが卵を産んでから約2ヶ月、この三角屋根の巣箱で大きくなりました。フクロウの子育ての様子を観察するためにビデオカメラの設置を試みましたが、なかなか上手くいかず…いろいろと改良した結果、三角屋根になってしまいました。でも森の中の三角屋根の家って素敵でしょ！フクロウの赤ちゃんがとても可愛らしく見えます。暗くなったらお母さんフクロウの声に誘われて、巣箱から飛び降りて森の中で暮らします。

おじさんたち、森の中で相撲をとっているのではありません。手前のおじさんの左手にフジの蔓がみえますか？木に絡まったフジの蔓を二人がかりでひっぱって伐った反動で二人とも投げ出されました。

トヨタの森では「フクロウの棲む森づくり」と題して森の整備をしています。かつては人が生活のために利用していた里山ですが、新しい里山のあり方を考える中で、生きものの視点で森を考えてみる事にしました。トヨタの森に棲むフクロウのためにたくさんの人が森づくりに参加してくれました。木を伐って整備した森に架けた巣箱を使ってフクロウが子育てをした時には、みんなで大喜びしました。樹洞で暮らすムササビも巣箱で子育てするフクロウも生物多様性豊かな森の仲間。人が手を入れた明るい光のさす森で命を育んでいます。森の整備で汗を流す原動力は、生きものたちとの素敵な出会い！感激を分かち合う仲間。そして自然と共に生きている喜びなのだと思います。

撮影場所：愛知県豊田市トヨタの森

〔講評〕

毎回出品していただいていた、特に動物や貴重な野鳥などの写真が印象深いのですが、今回も1枚目はムササビですね、非常に可愛く撮れてます。余程通り慣れたフィールドを持っていないと見られないのですが、見事に撮影されてますね。2枚目のフクロウの子どももいいですね。これは巣箱をかけたから見られたのでしょうか。3枚の中に人が活動しているシーンが入っているのもいいですね。単に動物だけの写真ではなく、心が和みます。

〈今森 光彦氏〉

①



②



③



「台場クヌギ林の再生から里山文化を楽しむ！」

ひとくらクラブ

（兵庫県川西市）

和田 勲

檜原 朋子

和田 久美

〔メッセージ〕

私たちの街の北部では茶事で使う高級道具炭の生産が400年以上前から茶道文化に支えられ続いています。豊臣秀吉が茶会でこの地の炭を誉めたと古文書に残るなど茶の湯とも深い関係があり、今も皆伐更新が続けられている「生きた里山」と言われています。しかし今では炭を焼く家は一軒だけになりました。私たちの活動地「兵庫県立一庫公園」もその地にあり、かつては炭焼が行われた多くの炭焼窯跡が残っていますが、公園内のクヌギ林は40年以上も放置されヒサカキなどで暗い林になっていました。

この地特有の台場クヌギ林の再生を目指して県との話し合いを重ね、毎年少しずつ高木になったクヌギを台場にしていきながら、窯木をつくり茶事用炭を焼く技術を学び伝承できるまでになりました。草刈をし、間伐材でおもちゃをつくり、木の実の油を絞り、かまどでご飯を炊き食を楽しみ、自分たちで焼いた炭で初釜・野点など里山文化を伝え楽しむ活動などもしています。定期的に皆伐をする台場クヌギ林は様々な環境ができ、いろんな花が咲き昆虫も鳥もやってきます。各自の技術や知識を持ち寄り、0歳から80歳近い高齢者まで一緒に山仕事をしながら子育てをし、自然の中で遊ぶ楽しさや怖さ自然の素晴らしさを伝え合い、多様な生物の生息地となるこの地特有の台場クヌギ林を残して行きたいと活動しています。

撮影場所：兵庫県川西市兵庫県立一庫公園

〔講評〕

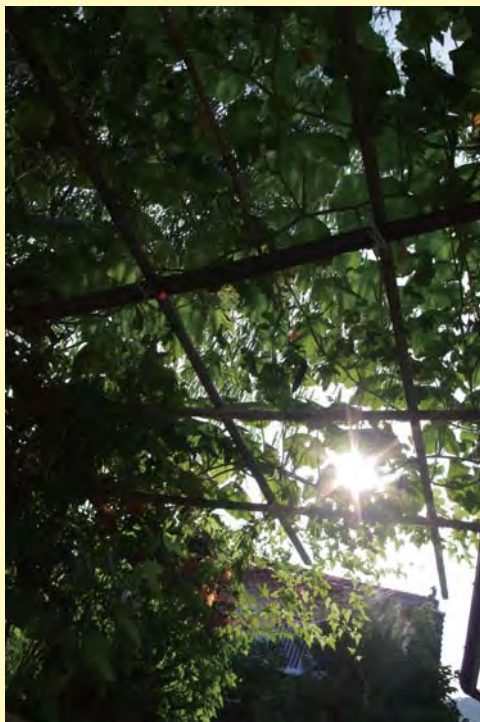
地域を限定して管理・活動されている場面ですが、最近では平野のクヌギ林がなくなったので、貴重な風景だと思いますね。夏に下草刈りをやっている活動の写真と、活動の途中で子どもたちが大きな葉っぱでお面を作って遊んでいる写真ですが、働いている姿と遊んでいる姿、それに環境の写真をうまく3枚にまとめていて、活動する喜びが伝わってきます。

〈今森 光彦氏〉

カメラ：Canon IXY DIGITAL 800IS

◎ 優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【学校部門】

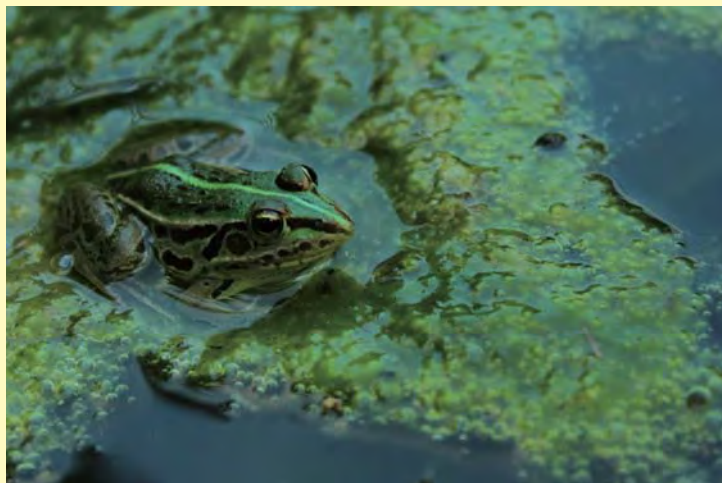
①



②



③



「涼しい里山」
岡山県立高梁城南高等学校 写真部 A
(岡山県高梁市)
柴田 彩名
佐藤 萌々子
藤澤 遥

〔メッセージ〕

みんなで個々に撮ってきた写真を見て、里山での涼しさや、風流の感じられるものを選びました。

緑いっぱいの中に、日差しのある写真は、里山のエネルギーと輝きを意識しました。見ている人に、里山の溢れる力を少しでも、伝えたいと思います。格子の上に葉が連なっている、自然らしい要素の一つでもあると思います。おじいちゃんと話している和やかな時に、撮った一枚です。

二枚目の写真は、水が湧いている大きな池があり、その水は実際に飲めます。人間が飲めるほどの美しい水は、やっぱり透き通ってるなあ、ありがたい、という里山の自然に対する感謝の気持ちが伝わればと思います。

そして、三枚目の写真は、カエルに気づかれないように撮った緊張の一枚です。一言でこの一枚を表現するとしたら、「静」です。

この三枚を、個々に見ていくと、メッセージ性はそれぞれありますが、共通しているのは里山の「休憩」そして、「夏の涼」というのが私達のテーマです。

撮影場所:①岡山県高梁市 ②③岡山県真庭市

〔講評〕

写真部だけあって、説明的ではなく、写真で表現しようとする感覚が伝わってきます。逆光で葉からこぼれ落ちる光が写っていたり、溪流では水の流れを強調するようにワイドレンズで接近して撮ったり、マクロレンズでカエルをアップにしてみたりといろいろなバリエーションで撮影されていて、写真を勉強している人の組み方だと感じました。

〈今森 光彦氏〉

カメラ :①PENTAX K-R ②FUJIFILM ③Canon EOS 60D

◎ 優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）【学校部門】

①



「大原の大切な自然」
京都大原学院 自然守り隊っ！
（京都府京都市）
中林 香穂
安井 有希
山本 莉帆

〔メッセージ〕

私たちは「大原の大切な自然」という写真を撮りました。その題名にした理由は大原の自然をこれからも大切に守っていききたいという意志からです。

一番はじめの写真は「ヤマツツジ」という花です。白とピンクとむらさきがまざっていて、とてもきれいな色で自然ならではの美しさを感じます。

二つ目の写真は「アオダイショウ」というヘビです。とても生々しい感じがして怖かったです。

三つ目の写真は学校の畑への橋から撮った川です。大原の一つ一つの大切な川を撮りました。

これらの三つの写真のように大原には大切な自然があふれています。私たちはこれからも大事な生命を大切にしていきたいです。これからの十年後、二十年後の人たちにも、自然のとうとさを語りついでいきます。

撮影場所：京都市左京区大原

③



〔講評〕

余程観察してないと撮れない写真が多く、特に2枚目のヘビの写真はよく撮れてます。森の中で休んでいるシーンでしょうか、よく接近できたなあと感じます。

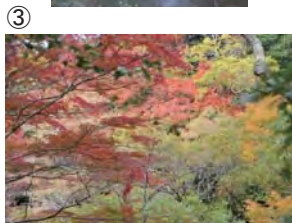
1枚目のツツジの写真も花が密集して美しいところを撮っています。3枚目の写真は明るい溪流でしょうか、こういう環境で活動されているのでしょうか。3枚とも撮り方は違いますが、うまくまとめています。小学生としては大変素晴らしいです。

〈今森 光彦氏〉

カメラ：Canon PowerShot A460

一次審査通過作品【一般部門】

『箕面川の主』 グループカネコ (大阪府箕面市)



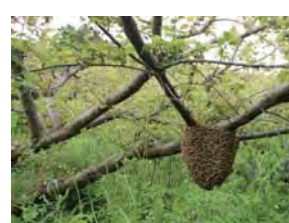
Nikon D700

『京都山科の「里山の郷愁」』 小野ファミリー (京都府京都市)



Panasonic DMC-FZ100

『里山の不思議発見』 トンボのめがね (和歌山県西牟婁郡)



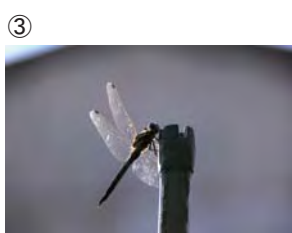
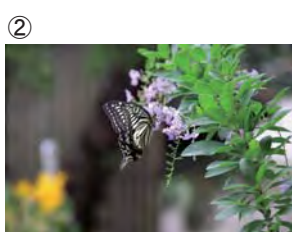
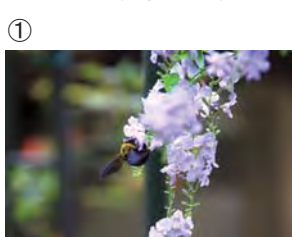
Canon IXY 900IS

『実りの秋』 久世写真会 (岡山県真庭市)



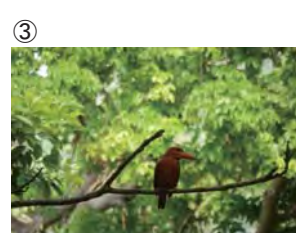
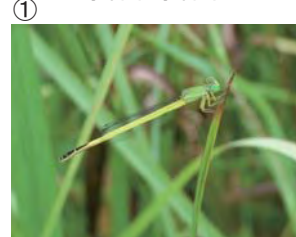
①Canon EOS Kiss X2
②Canon 50D③Nikon 40X

『心を癒す昆虫たち』 ファミリー・ハラダ (大阪府東大阪市)



Canon Kiss3

『Satoyama of Japan』 生き物クラブ (京都府京都市)



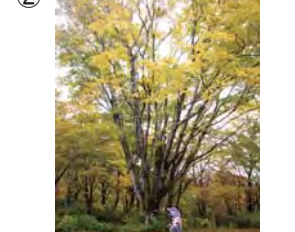
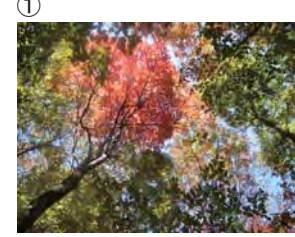
①RICOH R5②RICOH CX2
③OLYMPUS SZ-30MR

『北山の森』 田中ブラザーズ1 (岐阜県郡上市)



Nikon COOLPIX 800

『紅葉狩り』 そらぐみ (奈良県奈良市)



Canon IXY 910IS

一次審査通過作品【森林・林業活動部門】

『2011年しおんじ山』 しおんじ山の会 (大阪府箕面市)

①



②



③



OLYMPUS SP-590UZ

『森を歩く』 滋賀森林インストラクター会 (滋賀県草津市)

①



②



③



Nikon COOLPIX P700

『森林に悪さをする カワウの糞』 特定非営利活動法人 ヒマラヤン・グリーン・クラブ (滋賀県大津市)

①



②



③



FUJIFILM FinePix 2500

『人と虫の理想の森づくり』 理想の森プロジェクト (京都府京都市)

①



②



③



Canon EOS Kiss Digital

『はじめての ウォークラリー体験!!』 オムロンの森(大正池)に 学ぶ仲間たち (京都府木津川市)

①



②



③



Panasonic LUMIX

一次審査通過作品【学校部門】

『里山ではたらく』
岡山県立高梁城南高等学校
写真部 B
(岡山県高梁市)



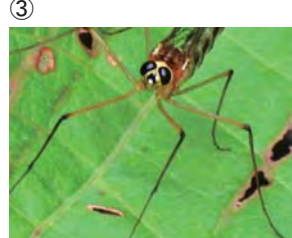
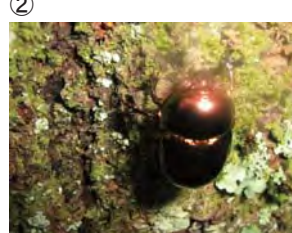
Canon EOS 60D

『森にひそむ木々』
岡山県立高梁城南高等学校
写真部 C
(岡山県高梁市)



Canon EOS Kiss X2

『自然と生きる虫たち』
京都大原学院 仲良しチーム
(京都府京都市)



Canon PowerShot A460

『自然と虫の助け合い』
京都大原学院
自然大好き！！M・R
(京都府京都市)



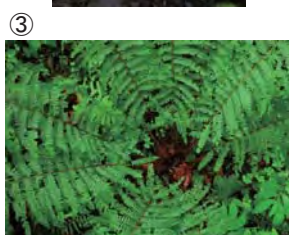
Canon PowerShot A460

『受け継いで』
広島県立庄原格致高等学校
写真部 A
(広島県庄原市)



①③Canon 30D ②Nikon D80

『不思議の森』
広島県立庄原格致高等学校
写真部 C
(広島県庄原市)



①Canon EOS 20D ②EOS Kiss ③Nikon D200

『アザミに惹かれて』
広島県立庄原格致高等学校
写真部 D
(広島県庄原市)



①OLYMPUS ②③Canon EOS 20D

「グループ対抗里山デジカメ選手権」の作品展示

- 場所：兵庫県立一庫公園ネイチャーセンター（兵庫県川西市）
- 期間：平成23年7月15日～8月1日



- 場所：奈良市写真博物館（奈良県奈良市）
- 期間：平成23年8月23日～9月6日

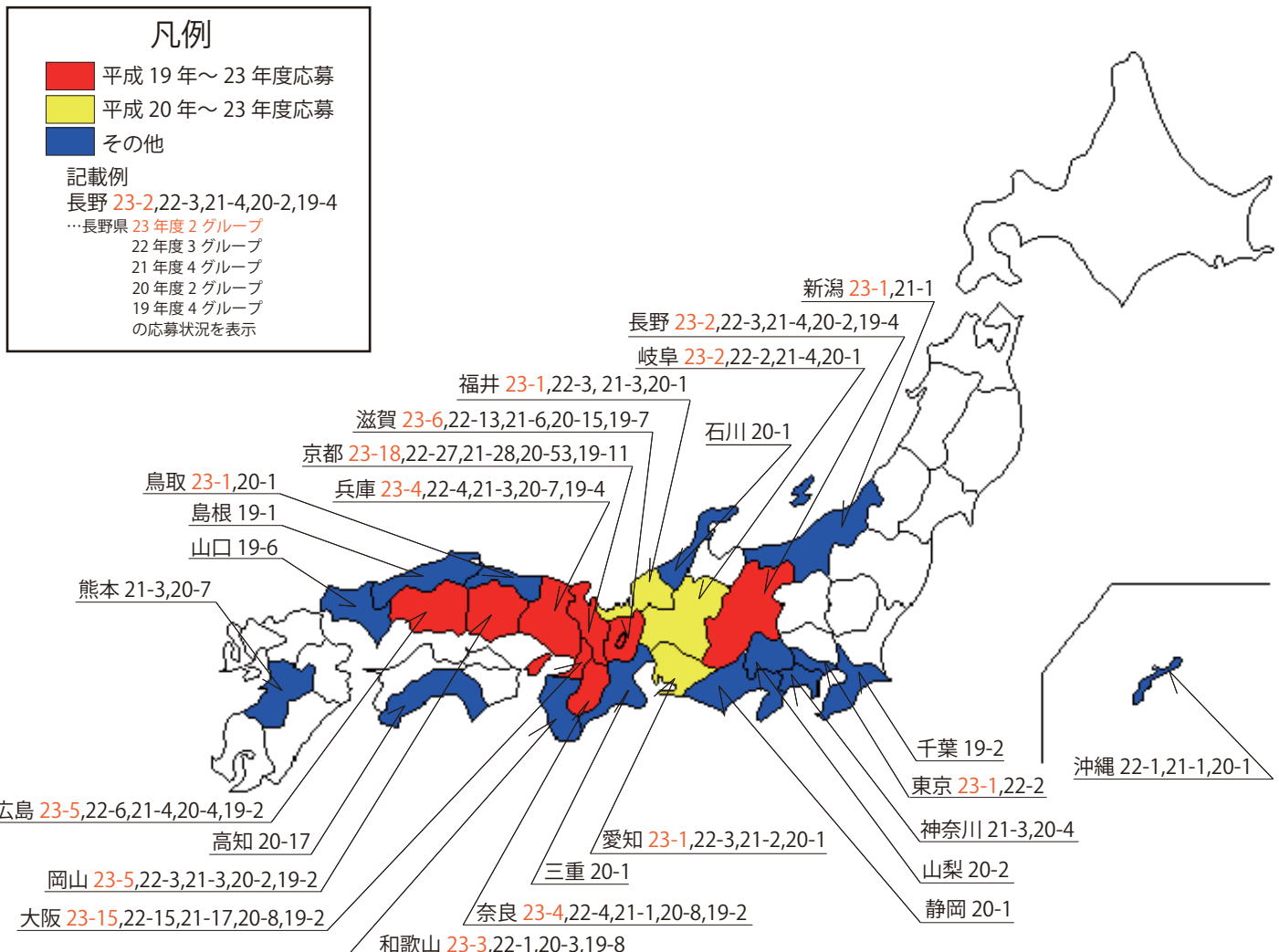


平成 23 年度「グループ対抗里山デジカメ選手権」地域別応募者状況

新潟県	越後の三姉妹	大阪府	NPO 法人日本森林ボランティア協会
東京都	認定 NPO 法人 JUON (樹恩) NETWORK		家族
長野県	NPO 法人木曽川・水の始発駅		きんきちゅうごく森林づくりの会
	NPO 法人やまぼうし自然学校		二上グループ
愛知県	トヨタの森		森のなかまたち
岐阜県	田中ブラザーズ I		山の道
福井県	ふくい森大すき一家		ワニワニクラブ
滋賀県	滋賀森林インストラクター会	奈良県	そらぐみ
	NPO 法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ		家族
	滋賀県立八幡商業高等学校		里山の住人
	北海道大学 & 福井工業高等専門学校		翌松
京都府	京都大原学院	兵庫県	デジカメ姉妹
	小野ファミリー		ひとくらクラブ
	オムロンの森(大正池)に学ぶ仲間たち		デジカメ撮り隊
	理想の森プロジェクト	和歌山県	トンボのめがね
	生き物クラブ	岡山県	岡山県立高梁城南高等学校写真部
	京生まれ三兄弟		友人同志
	京都森林インストラクター会		久世写真会
大阪府	江頭家族 II	鳥取県	板垣ファミリーズ
	グループカネコ	広島県	広島県立庄原格致高等学校
	しおんじ山の会		おもろい夫婦
	ファミリー・ハラダ		

(五十音順)

※ 最優秀賞(林野庁長官賞) 水都おおさか森林の市実行委員会賞 国際森林年特別賞 優秀賞(近畿中国森林管理局賞) 一次審査通過作品



応募票

(切り取ってご使用ください)

写真①

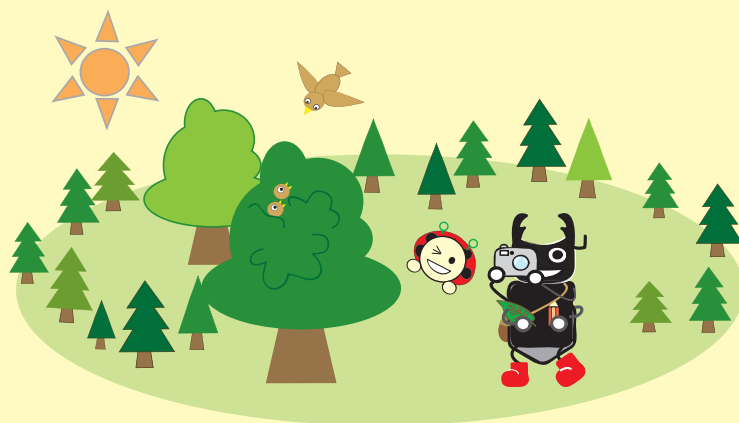
3枚1組の タイトル			
代 表 者 住 所	〒		
ふりがな 氏 名 年 齢	[1] グループ代表者		才
	[2]	才	[3] 才
代 表 者 連 絡 先	TEL : FAX : E-mail :		
グループ名 (学校名)			
撮影場所 年 月 日	場 所 : 年月日 :		
写 真 デ ー タ	写真番号 : ① カメラ機種 : 撮影画素数 :		
この募集をどこで知 りましたか? (○で囲ってください)	1 ホームページ 2 新聞 3 ラジオ 4 知人等 5 学校 6 知っていた 7 その他 ()		

写真②

3枚1組の タイトル			
グループ名 (学校名)			
撮影場所 年 月 日	場 所 : 年月日 :		
写 真 デ ー タ	写真番号 : ② カメラ機種 : 撮影画素数 :		

写真③

3枚1組の タイトル			
グループ名 (学校名)			
撮影場所 年 月 日	場 所 : 年月日 :		
写 真 デ ー タ	写真番号 : ③ カメラ機種 : 撮影画素数 :		



平成 23 年度「グループ対抗里山デジカメ選手権」

編集・発行：林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

〒 530-0042 大阪市北区天満橋一丁目 8 番 7 5 号

近畿中国森林管理局内

TEL： 0 6 - 6 8 8 1 - 2 0 1 3

FAX： 0 6 - 6 8 8 1 - 2 0 5 5

ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/



2011 国際森林年